杓子

〔鶉衣前篇上〕摺鉢傳

その比せつかひといひしおのこは、檜のきの木目細かに、その姿やさしきから、昔は御所にうぐひすの名にも呼れしが、○略下

〔書言字考節用集七器財〕杓子シヤクシ

〔運歩色葉集賀〕貝杓子カイシヤクシ

〔本朝食鑑十介〕帆立蛤訓如字、或稱二伊多良加比一、

海人采レ殼賣レ難波之市、市工磨琢夾二竹柄一而造二成大食匙一、以貨二四方一、是酌二味噌汁醬汁一之匕杓也、○中略

發明、帆立蛤殼解二諸毒一、故造二成大匕杓一、以酌二諸汁羹一、而解二禽魚蔬菜之毒一、是本朝古來何人之所レ爲乎、其博識仁術不レ耻二於農黃一矣、

〔倭訓栞中編二十三保〕ほたてがひ　帆立貝の義、海扇也といへり、車渠の一名も海扇といふ、相似て別物なり、今俗多く杓子に用ひたり、よて杓子貝ともいへり、諸毒を解すといふ、

〔和漢三才圖會三十一庖厨具〕杓子用二字音一

按、杓子倭之製、以扱二飯及羅汁一、形似二人掌一、而用二檜木一作レ之、勢州多鬼郡藤小屋村始作レ之、相傳、惟喬親王令旨曰、東限二江州一、西限二播州一、杓子木免二伐取一之書、于レ今有、有二神祠一、以爲二什物一、蓋惟喬雖二一宮一、不レ能レ卽二皇位一、閑居江州、何爲有二免許令旨一乎、與二弟惟仁親王一有二位爭一之事虛說也、今江州多賀里多作レ之、

髮杓子、小而宜レ盛二飯於盌一、俗云猿手、今皆漆髮、

凡民家饗應、揔食進レ人、曰二今一匕焉、當初用レ匕、近世異二名狀一也乎、

貝杓子以二車渠貝一、竹爲レ柄、扱二羅汁一佳、今則惡二野卑一而不レ用、多用二銅杓子一、

〔鶉衣前篇上〕長短解

摺粉木は兩手に握るを程とし、杓子、さい槌はかた手にたれり、下ざまの物ながら、天理のまゝな